

日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第99号 平成29年(2017)9月1日

資料見聞

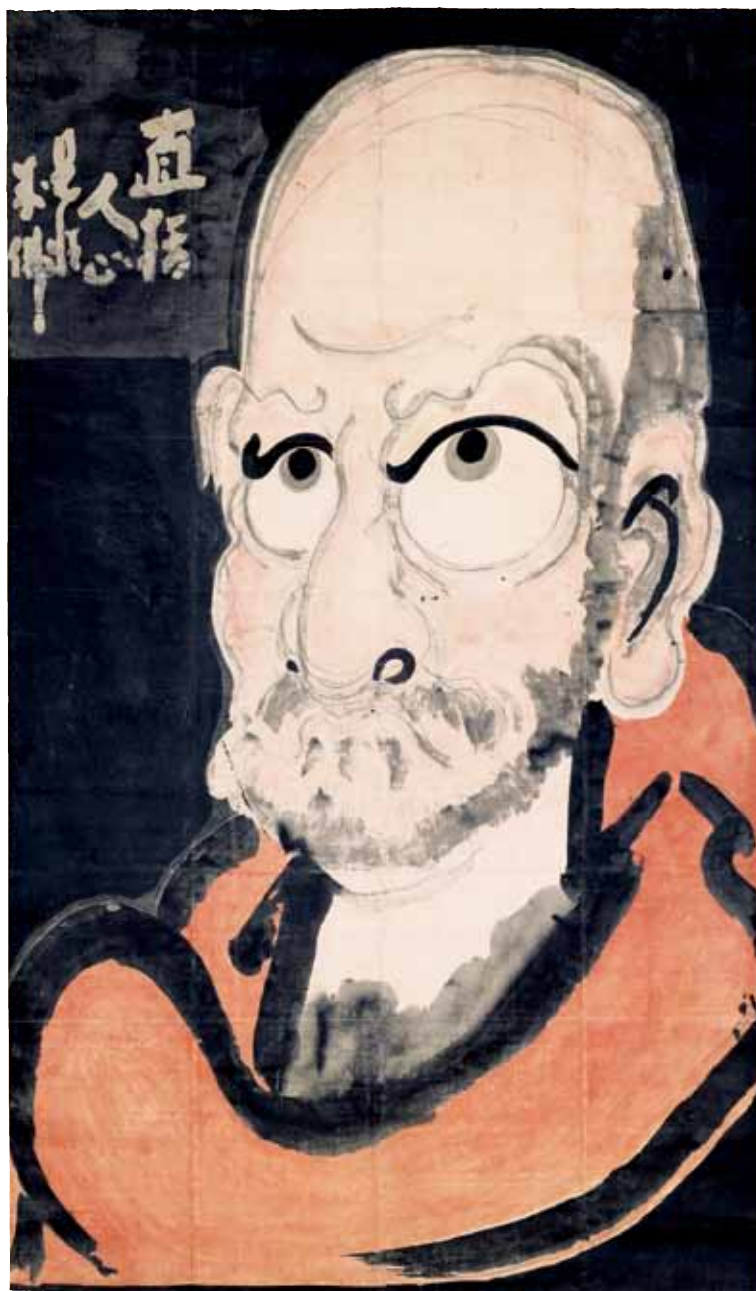
達磨像 だるま ざう

白隠慧鶴筆 はくいんえかくひつ

大分県

萬壽寺蔵 まんじゅじ

那須 望



達磨像 白隠慧鶴筆 大分県 萬壽寺蔵

ぎよろりと見開いた大きな目。墨で塗りつぶされた背景と真っ赤な衣のコントラスト。一度見たら忘れられないほど印象的なこの作品を描いたのは、江戸時代に活躍した白隠慧鶴(二六八六―一七六八)という臨済宗の僧です。

鎌倉時代に日本にもたらされた禅宗は、臨済宗を中心に室町時代に全盛期

を迎えますが、江戸時代には衰退していました。そんな時代にあつて白隠は、禅の本来あるべき姿を指摘するとともに、これまで支配層の信仰であつた臨済禅をわかりやすい禅画によって民衆にも布教し、みごと臨済宗を再興したのです。

この作品は、数万点の禅画を描いたといわれる白隠の代表作です。

左上には、「直指人心 見性成仏」と記されています。あえて言い換えれば、「言葉や座禅によって仏になろうとするのではなく、本当の自分のこころをみつめて、そこにある仏に気づきなさい」とでも言えましょうか。禅の根本であり、白隠が最も伝えたかったメッセージです。

この作品は、次頁以降で紹介する特別展に出品される予定です。



志国高知 幕末維新博 関連企画第4弾

特別展 今を生きる禅文化 ―伝播から維新を越えて―

平成29年10月14日(土)～11月26日(日) 那須 望

平成二十八年は、臨済宗開祖・臨済禅師の一五〇年遠諱(※)、本年は、臨済宗中興の祖・白隠禅師の二五〇年遠諱が続くことから、いま、禅がこれまで以上に注目を集めています。

意外に思われるかもしれませんが、実は臨済宗は高知ととてもゆかりの深い宗派です。例えば、高知出身で南北朝から室町時代を中心に活躍した義堂周信と絶海中津のふたりの臨済僧は、天皇家や足利將軍家から厚く信頼され、重要な政策ブレーンとしても活動し、禅宗の発展と文化の形成に大きく影響を与えました。

本展は、京都をはじめとする県内外の禅宗寺院の全面的な協力のもと、国宝・重文を含む珠玉の名宝を一堂に展示し、時代を越えて生き続ける禅文化を紹介するとともに、土佐とのつながりにも光を当てた、これまでにない展覧会です。

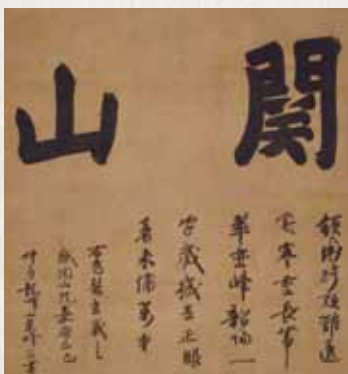
ここでは、展覧会の章構成に沿って展示内容をご紹介します。

(※遠諱…宗祖や開山などの没後五十年ごとに行う大きな法会。)

第1章 禅宗の誕生と日本での受容

インドで菩提達磨によって創始された禅宗は、中国で発展し諸派が誕生しました。そのうち、我が国へは鎌倉時代に臨済宗と曹洞宗がもたらされました。

特に臨済宗は、相伝の証として、師の肖像を作成したり、師から弟子へ書き物を送ったりしました。また、茶の湯や水墨画といった、日本文化の形成にも寄与しました。その結果、今日、禅宗美術の遺品の大半は臨済宗に関わる作品となっています。まず、第一章では、京都の臨済宗各本山などの



《宗峰妙超墨蹟「関山」道号》
国宝 京都 妙心寺蔵〔前期展示〕

大徳寺開山の宗峰妙超が、弟子で妙心寺開山の関山慧玄に法号を書き与えたもの。妙心寺の法灯のつながりを示す寺宝中の寺宝。



《一休宗純像》重文 京都 酬恩庵蔵〔前期展示〕
とんちの一休さんは、室町時代に活躍した臨済僧。奇抜な言動が有名だが、実は京都大徳寺を再興した功績も。



《中鶏図左右梅図》(中幅) 伊藤若冲筆 京都 鹿苑寺蔵
奇才・若冲も禅に帰依したひとり。代表的なモチーフの鶏も展示。

第2章 維新を越えて

宝物を中心に、禅宗の歴史と、その発展の中でうまれた文化をご紹介します。

室町時代に全盛期を迎え、いったんは衰退したものの、江戸時代、白隠など民衆に向けた教化も行った禅僧の登場によって再び隆盛した禅宗。しかし、明治

維新という大きな歴史の転換によって、また激動の時代に突入していきます。新政府の神仏分離政策をきっかけに、全国で廃寺の動きが起きます。高知も例外ではなく、禅宗寺院の多くが廃寺になり、貴重な宝物が失われました。

しかし、明治十年頃には廃寺復興の動きが始まり、いくつかの寺院が再興され、現在に至ります。

吸江寺住職で「土佐坊」と呼ばれた少林踏雲は、黒潮町の長泉寺をはじめ、県内十六寺(一説には二十寺とも)を再興したといえます。本展にむけた準備中に新たに見つかった『再興録』も展示いたします。

また、津野町の聖音寺の再興には、踏雲和尚ら僧籍者のほかにも旧葉山村出身の実業家、片岡直温らの尽力がありました。

今回、新たに発見された資料や再興された寺院に残る宝物からは、廃寺復興のため奔走する僧侶や檀家などの切なる思いが伝わってきます。



《再興録》高知 吸江寺蔵
同寺の由来や再興に際しての寄付者名簿が記されている。



《菩薩坐像》重文 高知養花院蔵
廃寺復興のため、明治時代に京都から移転され
た養花院に伝わる県内最古級の仏像。

第3章 土佐が生んだ高僧たち

土佐にゆかりのある、義堂周信、絶海
中津、義天玄詔、山本玄峰という四人の
高僧を紹介しします。

義堂は、円覚寺など鎌倉の禅寺で活躍
したのち、足利義満の命で京都に戻り南
禅寺などに住持します。義満が、禅宗寺
院の統制のために、その序列を定めた五
山制度の制定にあたっては、南禅寺を別
格とすることを進言し「五山之上」とし
ました。

絶海は、相国寺や南禅寺で住持を務め、
臨済宗諸寺の統制をし、幕府との連絡を
行う要職について、臨済宗の絶対的な地
位を築きました。

義天は室町時代に活躍した臨済僧で、
枯山水の石庭で有名な京都の龍安寺を開
山しています。

玄峰は、幕末から昭和の激動の時代を

生きた臨済僧
で、政財界の
要人から心の
師と信頼され
ました。特に
終戦の詔の一
節「耐え難き
を耐え、偲び
難きを偲び」
は、玄峰の示
唆によるもの
といわれてい
ます。



《山水図》重文 京都 相国寺蔵 [後期展示]
雪の残る山々と行きかう人物を描いている。絶海の賛がある。

第4章 土佐に伝わる寺宝

最後に、県内の禅宗寺院で大切に守ら
れてきた宝物を紹介します。また、高知
市宗安寺の不動堂本尊で、通常は六十
年に一度しか開帳されない不動明王坐
像（重要文化財）が特別に出開帳されま
す。この機会を逃すと、次の御開帳は
二〇五八年ということですから、修復を終え
たばかりの両脇侍も必見です。



《十二神将像のうち一尊像》重文 高知雪隠寺蔵
ユニークな表情が魅力的。本展には十軀残る
十二神将のうち二軀が出展される。

特別展 「今を生きる禅文化 ―伝播から維新を越えて―」 準備進行中

本展は、三階総合展示室と一階企画
展示室、二階長宗我部展示室の一部も
会場となる、大規模な展覧会です。

展覧会に向けて企画立案、ご所蔵者
への出品交渉から始まり、作品調査・
撮影、展示構成を終え、ただいま、展
示環境調査、作品輸送計画、関連企画

準備、図録の執筆他各種印刷物作成中
です。

この写真は、高知市吸江寺の地蔵菩
薩坐像の撮影風景です。ライティング
によりお像の印象も随分と変化しま
す。荘厳な雰囲気とともに鑑賞すべきこ
ろが表現されているか、カメラマンと
ともに、担当学芸員も作品チェックを
しています。と同時に、お寺からの搬
出のシミュレーションも行っています。
「お像の脆弱な箇所はどこか」、「安
置されている壇の高さは」、「運び出
すのに木枠に入れるべきだが、この
扉を通過できる寸法に収めない」と、「
トラックまでの距離は」、「等々周囲
の状況にも注意を払わなければなりま
せん。搬出は台風シーズンにかかるこ
とから、天候も心配の種です。

九月からは、いよいよ、作品の借用・
搬入が始まります。大分・愛媛県を皮
切りに、京都、県内から続々と作品が
当館に集結します。

展覧会まで、あと一月余り。職員一
同、気を引き締めて開幕に備えたいと
思います。

（那須・曾我）



特別展「今を生きる禅文化―伝播から維新を越えて―」

「吸江寺文書」と長宗我部氏

野本 亮

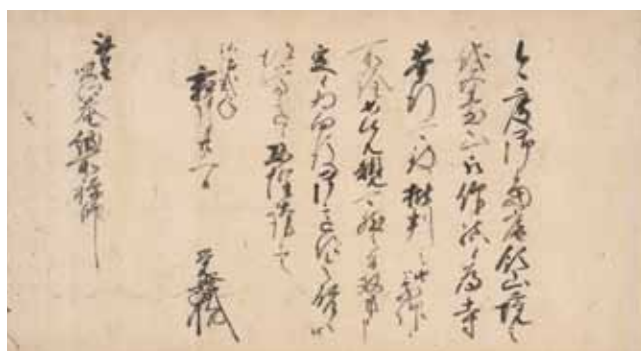
吸江寺には古くから相伝されてきた古文書（卷子装）全四九通が現存しています。第一巻には「左辨官下文」〔右中辨藤原朝臣宛〕を初めとし、「鈴木平兵衛書状」（吸江寺忠蔵主集僧中宛）までの二五通。第二巻には、「吸江領免除御判物披露状」（宛所欠）から「吸江寺縁起」までの二四通が収録されています。本文書群により、吸江庵が文和二年（一三五三）以前に五台山から独立し、康永・応永年間頃までに稲吉名・介良庄・吾川山庄・片山庄の一部を寺領として経済的な基盤を確立していたことが確認できます。

また吸江庵は、京都五山の相国寺の塔頭勝定院の末寺となっていたことから、足利將軍家や土佐国守護・細川氏の厚い庇護下にあったことも分かります。戦国動乱期には細川氏に代わり、近郊の岡豊城主・長宗我部氏が直接寺院経営に関わったため、国親・元親・盛親ら歴代当主の判物も遺されていて貴重です。

第二〇代当主国親は、南禅寺住持・仁如集堯より「瑞応覚世」の法号を授かり、子息の元親は仁如の親友で天龍寺の策彦周良より「雪蹊恕三」の法

号を得ています。ちなみに有名な元親画像（国重文）の賛を認めた惟永永哲（東福寺長老）はこの仁如の門人でした。長宗我部氏は、十二代兼能の頃より吸江庵の俗別当職（寺奉行職）を勤めており、代々京都の臨済宗有力寺院の高僧との繋がりが深かったことが分かります。

今回の特別展では、禅宗寺院と長宗我部氏に関する小コーナーを設置する予定です。どうぞ長宗我部展示室の方もお見逃しなく。



長宗我部覚世（国親）裁許状 吸江庵宛 吸江寺蔵

特別展 今を生きる禅文化 ―伝播から維新を越えて―

会期中は次の①～⑨の様々な企画を実施します。ふるってご参加ください。

関連企画目白押し！

①記念講演会「禅と日本文化」

日時：10月14日（土）13時30分～15時

講師：臨済宗相国寺派管長 有馬頼底 猊下

②講演会「禅的思考―今を生きるために」

日時：11月4日（土）14時～16時

講師：全生庵 住職 平井正修師

③講座「土佐より見る日本臨済禅の流れ」

日時：11月18日（土）14時～16時

講師：花園大学国際禅学研究所 瀧瀬尚純氏

④ワクワクワーク その1

おとなのためのワークショップ「禅語を筆で書こう」

日時：10月21日（土）14時～15時30分

こどものためのワークショップ「色んなかたちを筆で書こう」

日時：10月22日（日）14時～15時30分

（墨は洗ってもおちません。汚れてもかまわない服装でご参加ください）

両日とも 講師：上岡祐希氏、先着各15名

⑤ワクワクワーク その2

おとなのためのワークショップ「白隠さんダルマ絵付」

日時：11月3日（金・祝）10時30分～12時

講師：草流舎 先着15名、参加料：1,500円

こどものためのワークショップ「ダルマさん絵付」

日時：11月3日（金・祝）13時から

土台がなくなり次第終了

講師：草流舎、カルチャーサポーター

先着50名 参加費1,500円

⑥呈茶席

日時：会期中の土・日・祝 11時～15時

（11/4、18は17時まで）

会場：当館休息室他

料金：200円（お菓子付、受付でお茶券を購入してください。各日先着100名まで）

⑦イス坐禅体験

日時：10月15日（日）、28日（土）、11月5日（日）、

11日（土）、19日（日）、25日（土）、26日（日）

各日とも11時、14時の2回（30分程度）

協力：カルチャーサポーター、
臨済宗妙心寺派四国西教区第十部

⑧袈裟を着てみよう

会期中随時

⑨担当学芸員によるミュージアムトーク

日時：10月29日（日）、11月12日（日）、11月23日（木・祝）

14時～14時30分

※11月12日は英語通訳付きのクイックトークです。

すべて観覧券要。

①～③先着130名。

①～⑤は事前申し込みが必要です。

⑤、⑥以外は参加費無料です。

特別展 関連企画ピックアップ

特別展

呈茶席

お抹茶をどうぞ

特別展で主に取り上げた臨
済宗はお茶を広めた宗派であ
り、本展では茶西に関する作
品、茶碗・茶杓など茶の湯に関
する道具も展示されます。関連
して会期中の土・日・祝日は呈
茶席を設けます。ご観覧の合
間にお茶を一服いかがですか。
(詳細は四頁)



特別展

体験コーナー

袈裟を着てみよう



絡子

袈裟はお坊さんが身に着ける
法衣です。特別展では、高知
市の吸江寺に伝わる七百年前の
「九条袈裟」を展示します。禪
宗の高僧が着ける大きな九条袈
裟の展示に合わせて袈裟の体験
コーナーを設けました。こちら
には普段、禅僧が着ける小さな
袈裟の「絡子」をご用意してい
ます。禅庭の写真を背景に記念
写真を撮ることもできますよ。

特別展

体験プログラム

イス坐禅

同じ禅宗でも、曹洞宗では、壁に向かってひたすら坐禅をする「黙照
禅」が行われます。一方、臨済宗では、対面式に座り、師から与えられ
た「公案」の答えを探す「看話禅」が行われています。最近では、忙し
い毎日から少し立ち止まる禅的な考え方が注目され、坐禅も修行として
だけでなく様々なきっかけから取り組まれる人が増えているようです。
今回は、ご家庭でもすぐに実践できるイスにすわって行う簡単な坐禅
体験を行います。始めに坐禅の基本的な姿勢や手の置き方などについて
説明します。その後、実際にイスに座って坐禅を行います。(所用時間
三十分程度)

特別展

体験プログラム

白隠さんダルマ絵付



土佐和紙漆喰張り子
白隠さんダルマ 草流舎作

ダルマさんは、日本ではおもちゃとしても親しまれてきました。特別
展では、白隠さんが描いた達磨大師をモチーフにした張り子の絵付を
十一月三日に行います。講師に草流舎さんをお迎えして、午前一〇時半
からは「白隠さんダルマの絵付」(事
前申込み先着一五名)、午後一時か
らは自由な「ダルマさん絵付」(当
日先着五〇名)です。無病息災、商
売繁盛、合格祈願…いろいろな願い
を受けとめて何度転んでも起き上が
るダルマさんを、凛々しく、あるい
は可愛く絵付けしてください。

企画展 こぼれ話 「土佐藩には厳しい身分格差があったのか」

石畑 匡基

企画展「大政奉還を「象」った男 後藤象二郎」では、後藤象二郎を中心とした土佐藩上士の目線から、幕末の土佐を捉え直した。小説やドラマの世界で、郷士（下士）をいじめる上士というイメージをお持ちの方も多くいるのではないだろうか。

とある漫画では、郷士の妻が日傘を差していたところ、上士がそれを咎めるといふシーンが登場します。このような服装の差別から、土佐は身分格式の厳しい藩であったと語られることもしばしば。現代人の視点では、上士はひどいと思う人もいるでしょう。しかしながら、江戸時代は、士農工商の序列で代表される身分制社会です。当時は、それぞれの身分で分相応の服装をするのが当然という考えの人もいます。今回の企画展で何冊か展示させていただいた『真覚寺日記』を著わした僧侶・井上静照は、土佐藩士の服装を見て次のように記しています。

京坂の間にて武士の往来するを見るに、薩長を始めその外の国々の御家来、上下きつぱりと別ち、士は士、足輕は足輕と装束差別あり、然るに御家来は士も郷士も足輕も庄屋も民兵も只衣類をかざり、上下の差別な

し、却って他国の人これを笑い誇る由也、左もあるべし、惣じて近頃は御国中にての往来にも一向その取り分け出来難し、帯刀する者は庄屋・足輕・陰陽師の族迄も皆士の様なる顔して通る、これは御国法の大に崩れたる印なり、

つまり、他国は武士とその他の身分で服装の別があるが、土佐はそれが乱れているので、京都などでは他国の人に笑われている。また、国内でも見分けがつかず、これは国の決まりが崩壊している印だということです。

土佐藩では服装に関する法令がいくつが出されていますが、庶民でも良い服を購入できたために出されたという見方もできます。ちなみに静照は、右の記述に「その位でなければ政治などできない」と続けて

おり、上下の区分がないことが土佐の強みとしています。



真覚寺日記（真覚寺蔵）

森田家資料の調査について

石畑 匡基

平成二九年・三〇年の二ヶ年にわたる「志国高知 幕末維新博」が開幕して半年が経ちました。県内各地で関連する展示やイベントが開催されています。それに伴い当館では、県内の歴史資料の調査を進めています。そこで、活動紹介の一環として、現在調査中の森田家資料を皆様に紹介します。

もともと森田家は香美郡佐岡村（現・香美市）の郷士です。土佐藩庁からの信任も厚く、山林の経営を委任されていました。また、明治になると森田團右衛門（のち、団八郎）が戊辰戦争に従軍しており、従軍中の湿板写真や今市（現・栃木県日光市）での戦闘を描いた絵図が残されているなど、多岐にわたります。

大部分は一九七九年に刊行された『土佐山田町史料 第三巻』に活字化されています。しかしながら、今回の調査により、収載されていない資料や軍服などの資料が多数あることが判明しました。現在のご当主のご厚意により、段ボール箱で十数箱にわたる資料をお預かりし、次の手順により、調査を進めているところです。

まず、防虫のためエキヒュームという薬剤による燻蒸処理をほどこしまし

た。現状よりも資料が傷むのを防ぐためです。次に、中性紙の封筒に文書を入れ、整理を円滑に進める作業をしています。そして、『土佐山田町史料』記載分との校合作業を行っています。まだまだその全貌を把握するには、時間を要すると考えられますが、研究紀要などで調査成果の一部を皆さんに紹介できるよう、少しずつではあります。ご期待ください。



今市戦闘図（森田家蔵）



森田團右衛門湿板写真（森田家蔵）

フランス水兵の墓

野本 亮

土佐藩兵の銃撃の結果、堺で命を落

とした十一名のフランス水兵は、全員二十代の若者でした。先学の研究によれば、二名以外の大半は徴募兵だったよう

現在でもフランス海軍の艦艇が神戸に入港すると、乗組員が墓参りに訪れるという外国人墓地。企画展関連企画の「史跡めぐり」では、事件現場となった堺だけでなく、異国の地で果てたフランス水兵が眠る墓地にも足を延ばしたいと思

の後、彼等の遺体は神戸外国人居留地の墓地に埋葬されました。その後、何度かの移転・統合を経て現在六甲山地、再度山頂修法ヶ原墓地に埋葬されています。この水兵たちは、一八六二年に就役したフランス海軍デュプレクス号の乗組員でした。同艦は極東に配備され、同六四年の四国艦隊による下関砲撃にも参加しました。

ちなみにこの戦闘では長州藩側からの直撃弾を受け、二名の死者と八名の負傷者を出しています。その数年後、すなわち同六八年二月一五日の夕刻、堺に入港した同艦は、港内の測量を始め、一部隊を上陸させたことによるトラブルの結果、悲劇的な事件が発生することになるのです。



神戸市立外国人墓地
デュプレクス号 乗組員の墓



コルベット艦 デュプレクス号 (corvette Duplex)
ジェーン海軍年鑑より

岡豊城跡だより

まだまだ残暑厳しい岡豊山ですが、秋の気配も少しずつ感じられるようになってきました。

幕末維新博で盛り上がる岡豊山からの熱いご案内です。

●「続日本100名城」の認定証が届きました。
本年四月六日、岡豊城は、公益財団法人日本城郭協会による「続日本100名城」に選定されましたが、このたび、協会から立派な認定証が届きました。

認定証の原本は歴史民俗資料館2階の正面階段横に、コピーは岡豊城跡詰の櫓内に掲示しています。

「続日本100名城」のスタンプラリーは、今冬、ガイドブックの発行とあわせて開始予定とのことです。スタンプが届くまで、楽しみにお待ちくださいね。



●「続日本100名城」の紹介パネルを設置
櫓内で、今回選定された100城の一覧を展示しています。これであな

●岡豊城跡のジオラマが登場

以前、当館内で展示していたものをリニューアルして再登場させました。山城である岡豊城跡の全体のつくりがよく分かります。

●好評！岡豊城跡めぐり

案内人のガイド付きで岡豊城跡を散策しませんか。参加者に「知らなかったことが分かり、面白かった」「ためになった」など、大好評です。

これから、山歩きに気持ちの良いシーズンです。ぜひ、ご参加ください。

○案内実施期間…平成二九年四月一日～平成三一年三月末（「志国高知幕末維新博」の開催期間中）
年末年始（十二月二十七日～一月一日）の休館日を除く。雨天や荒天時は中止。

○案内料…無料

○案内日…毎週土曜・日曜日及び祝日

○出発時刻…午前十時と午後二時

○所要時間…約三〇～四〇分

案内希望の方は、長宗我部元親飛翔之像前（当館エントランス前広場）に出発時刻前にお集まりください。事前予約は不要です。

※右記以外の日時での案内も、希望日の二日前までに予約いただければ、できる限り対応いたします。詳しくは、当館までお問い合わせください。

（檜垣）

志国高知 幕末維新博関連企画第5弾！

企画展

予告!!

堺事件 —150年の時を経て—

平成30年 1月20日(土)～3月25日(日)

明治元年(1868)2月15日、現・大阪府堺市で警備を担っていた土佐藩兵がフランス水兵を銃撃した堺事件。藩兵の壮烈な切腹のみにとどまらず、多角的な視点からこの事件の本質に迫ります。



岡豊山フォトコンテスト 作品募集中!

作品募集締切: 11月13日(月)

テーマ: 岡豊山の四季

展示期間: 12月5日(火)～1月14日(日)

展示場所: 1階フリースペースほか

今回は、最優秀賞・優秀賞のほか、新たに「^{やしろ}櫓大賞」を設けました。ふるってご応募ください。

臨時休館のお知らせ

● 特別展展示・撤去のため

10/4(水)～10/13(金)、11/27(月)～12/4(月)ただし、10/7～10/9は長宗我部展示室のみ観覧できます。

● 年末年始休館

12/27(水)～平成30年1月1日(月)

岡豊山(おこうふうじつ) 第99号
平成29年9月1日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
観覧料 (通常展)大人(18才以上) 460円
(特別展)通常展込 200円 (前売 370円)
団体(20名以上) 370円
(特別展)通常展込 200円 (前売 160円)
団体(20名以上) 160円
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/>
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

特別展

志国高知 幕末維新博関連企画第4弾!

今を生きる禅文化

—伝播から維新を越えて—

平成29年 10月14日(土)～11月26日(日)

観覧料: 一般当日1,200円(前売1,000円・団体(20名以上)960円) ※高校生以下、高知県・高知市長寿手帳所持者、各種手帳所持者とその介護者(1名)は無料

前売券販売所

高新プレイガイド、高知大丸プレイガイド、高知市文化プラザミュージアムショップ、高知県立県民文化ホール、高知県立美術館ミュージアムショップ、高知県立高知城歴史博物館ミュージアムショップ、こうち生活協同組合、高知県庁生協売店、サニーマート(高須店、サニーマックス南国店、六泉寺店、あぞの店、中万々店)、金高堂書店(本店、朝倉店)、TSUTAYA中万々店、ローソンチケット(Lコード62755)、チケットぴあ(Pコード768-634)

※関連企画は4～5頁に掲載しています。



《菊虫図》伊藤若冲筆
京都 慈照寺蔵

特別展会期中(10/14～11/26)の展示室ご案内

- 3階総合展示室 特別展第1会場
- 2階長宗我部展示室の一部 特別展第2会場
- 1階企画展示室 特別展第3会場

特別展開催中は、3階総合展示室の通常展はご覧になれません。2階長宗我部展示室は一部特別展展示に変更予定です。

コーナー展のご案内

「武家の表道具 鎧」

8月14日(月)～10月3日(火)

土佐の侍たちも愛用した「仙太郎」、
「仏太郎」、「南蛮太郎」と呼ばれる実戦
向けの鎧を一堂に展示します。

幕末維新博関連企画



鉄鎧地昇龍打出五枚胴
(銘:雪下政家)